

「日欧ヘルスイノベーションフォーラム 2023」を開催 ～イノベーションの力で未来を切り開く～

欧州製薬団体連合会 (EFPIA : European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations、本部 : ベルギー・ブリュッセル) および一般社団法人 欧州製薬団体連合会 (EFPIA Japan) は、2023年4月12日、ヘルスケア分野でのイノベーション追求の重要性について日欧の産業側代表、政府側代表、日本の医療従事者代表、そして患者団体代表が登壇し議論を深める「日欧ヘルスイノベーションフォーラム 2023」を、駐日欧州連合代表部の拠点であるヨーロッパハウスとオンラインのハイブリッド形式で開催しました。



オープニングでは、EFPIA 会長のフベルトウス・フォン・バウムバッハ (ベーリンガーインゲルハイム 取締役会会長) がビデオメッセージを寄せ、2022年開催の EFPIA Day 2022 において、イノベーションの価値や市場の魅力、将来の日欧連携の機会について話し合ったことに触れ、本日のフォーラムは、保健医療システムの効率化とレジリエンスの強化に向けたさらなる連携を構築し、世界的視野で考えるための場になりたい、と述べました。



EFPIA Japan 会長の岩屋孝彦 (サノフィ株式会社 代表取締役社長) は、2023年は G7 が日本で開催され、国際製薬団体連合会 (IFPMA) による Biopharmaceutical CEOs Roundtable (BCR) も東京で開催される、日本にとって重要な年であり、EFPIA の初の試みとして、ヘルスケア分野でのイノベーション追求の重要性についてステークホルダーの皆様と議論するために、今回のフォーラムを企画した、と説明しました。

第1部 講演『イノベーションへの取り組み、支援する仕組み』

産業側、政府側、それぞれ日欧代表者からの講演が行われました。



『イノベーションの力で未来を切り開く』

EFPIA Japan 理事 菊池加奈子（ユーシービージャパン株式会社 代表取締役社長）

日本におけるヘルスケア分野でのイノベーションを定義し、イノベーションを創出して患者さんに提供するためのEFPIA Japan の5つの戦略を概説しました。日本の医薬品市場の魅力低下に関する懸念と根本原因について言及し、イノベーションを推進するエコシステムの構築を呼びかけました。

『グローバルから見た日本市場の魅力向上に向けて』

ポール・ハドソン（サノフィ CEO）

英国やスペインの事例を紹介し、それらをふまえて日本でイノベーションを促進するヘルスエコシステムを構築するための“3 wins”を提案しました。①イノベーションに持続可能な投資を行い保健医療システムの効率をさらに高める、②現行の薬価制度を改善し、予見性の高い、イノベーションをよりしっかりと評価できる制度とする、③研究開発環境を改善し、薬事規制を世界水準にそろえることで、革新的な医薬品の導入を加速させる、というものです。

『EUのイノベーション推進政策』

駐日 EU 大使 ジャン＝エリック・パケ氏

欧州連合を代表して、ジャン＝エリック・パケ 駐日 EU 大使が、コロナワクチンの基礎研究はEU発であったことや、ワクチンを初期の段階でEUから日本に届けたこと、昨今の国際情勢にも触れつつ、日欧の友好関係の重要性を強調しました。イノベーションに関するEUでの最近の取り組みとして、欧州全域での医療提供のあり方を飛躍的に向上させる推進力として期待されているEHDS（European Health Data Space）や、EUが進める研究とイノベーションのためのプログラムであるホライズン・ヨーロッパについて紹介し、日本の研究機関、製薬企業の参画を呼びかけました。

『日本におけるイノベーション推進政策について』

厚生労働副大臣 伊佐進一氏

国民に革新的な新薬を届けるとともに、産業として成長を続けるためには、絶え間ないイノベーションの推進が必要であるとし、日本政府のイノベーション推進施策として、医薬品産業政策に関する戦略の策定、アカデミアやベンチャー企業との協働の支援、イノベーション創出のための環境基盤整備を実施しており、それぞれについて具体的事例を紹介しました。

第2部 パネルディスカッション『絶え間ないイノベーション追求の重要性、そして未来への期待を語る』

患者代表として桜井なおみ氏（全国がん患者団体連合会理事）、医療従事者代表として渡辺弘司氏（日本医師会常任理事）、日本政府代表として城克文氏（厚労省大臣官房医薬産業振興・医療情報審議官）、産業代表としてキャスパー・ブッカ・マイルヴァン（ノボ ノルディスク ファーマ株式会社代表取締役社長）が登壇し、それぞれの立場から2つのテーマ「これまでのヘルスケア分野でのイノベーション」、「未来のイノベーションへの期待」について、忌憚のない意見を交わしました。



「これまでのヘルスケア分野でのイノベーション」

桜井氏：患者としてこのような場に参加できることに感謝します。がんに罹患した2004年当時、日本のがん医療はドラッグラグに直面しており、患者自身が国に働きかけてがん対策基本法、がん対策推進基本計画が策定され、徐々に状況は改善されました。ですがまだまだ有効な医薬品がない疾患領域で、日々命を落としている仲間がいるのも事実であり、患者の声を反映したイノベーションの議論が進展することを強く希望します。

渡辺氏：私が医療現場で治療にあっていた当時と比べ、効果的な医薬品が増えてきているという実感はあります。一方で、小児慢性特定疾病のような領域では、患者数が少ないために日本で治験を行うことが難しいという状況が長らく続いていることは課題だと感じます。

マイルヴァン：医療現場の声、そして治癒された患者さんの声が、次なる革新的な医薬品開発のモチベーションになっています。しかし、医薬品開発を続けていくためには投資をし続けなければなりません。日本こそがイノベーションを評価する国であると誇れるよう、新薬創出加算を維持し、薬価の再算定は市場が拡大することで薬価が引き下げられるのではなく、医薬品の価値が評価されるシステムに変えていく必要があります。医薬品産業として、責任ある形で制度改革の話し合いに参加していきたいと考えます。

「未来のイノベーションへの期待」

城氏：国民に健康な生活、社会をお届けするのが我々行政の目指すところであり、政府としてヘルスケアのイノベーションはとても重要であると考えます。これまでの医療のステージが上がるような新しいイノベーションを期待します。有識者検討会では、日本における現在の課題をどうするかということに取り組んでいますが、課題解決のためのキーワードは患者参画とイノベーションだと思っています。

マイルヴァン：我々企業は、患者さんのニーズにどう応えるかをいつも考えています。欧州では患者団体が欧州議会でも発言しており、こういった状況は日本の医療改革にも、イノベーションを推進するという意味でも役に立つと思います。デンマークではPPP（Public Private Partnership；官民連携）のプログラムがあり、アカデミア、医療機関、自治体、政策決定者が、課題解決のための包括的な議論をしています。常に患者中心でなければならぬと考えています。

桜井氏：見える化が必要だと考えます。ドラッグラグの問題は実際に起きています。劇的な効果を示す革新的な薬ができていのに、薬価・規制の問題があり日本に入ってくなくなっています。限られた財源で対応していくには、無駄を削減して革新的医薬品の開発に向けていくようなエコシステムが必要だと考えており、このエコシステム構築

の議論に患者も加えていただきたいと思います。

渡辺氏：世界では安全性・有効性が確立しているにも関わらず、日本では未だに使うことができない医薬品があることを認識しています。本邦にはさまざまな制度がありますが、本日お集りの外資系企業を含む革新的医薬品の開発に注力されている産業界には、引き続き日本における積極的な開発と医薬品の供給を期待します。

城氏：医薬品の大切さを昨今国民皆が再認識していると思います。この機会に改めて医薬品の供給について考え、どういふ解決策があるのか、薬事、薬価、研究開発支援など、横串を指して有識者検討会で検討しているところです。それをユーザーである患者さん、国民広くに理解していただく必要があると思っています。見える化、そしてPPI（Patient and Public Involvement；患者・市民参画）の推進も含めて取り組んでいきたいと思っています。

結び

近年世界が直面したパンデミックや地政学的対立の最中においても、まだ治療法がない疾患や新たな感染症等の未知の疾患と私たち人類は闘い、学び合ってきました。本フォーラムでは、ステークホルダーが双方のビジョンや課題を共有し、医療分野でのイノベーション追求の重要性について議論することで、医療の未来への期待を再認識することができました。本フォーラムが、日欧医薬品産業のイノベーションへのチャレンジを促進する一助となれば幸いです。



お問い合わせ先：

岡本 雅子

Japan Joint Working Group

〒100-8268 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー

サノフィ株式会社

Tel: 080-8078-5228

Email: Masako.Okamoto@sanofi.com